

倒れている人を見たら（心肺蘇生法の手順）

1 安全を確認する

状況にあわせて自らの安全を確保する

2 反応の確認



肩を叩きながら呼びかけて反応を見る。

3 119番通報AEDの依頼

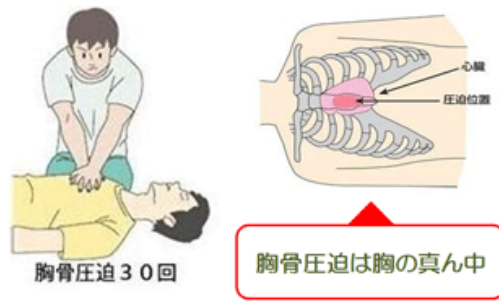


反応がなければ119番通報とAEDの依頼

4 呼吸の確認



5 胸骨圧迫



普段どおりの呼吸がなかったらすぐに胸骨圧迫30回を行う

6 気道確保



あご先を引き上げ、呼吸をしやすくする

7 人工呼吸



鼻をつまみ、胸が上がる程度に2回吹き込む
(1回の吹き込み時間は約1秒)

※ 成人の場合

胸骨圧迫は肘をまっすぐにして圧迫部位を垂直に傷病者の胸が約5cm沈むほど強く圧迫します。速さは1分間に100回～120回のテンポで30回連続して絶え間なく圧迫します。圧迫と圧迫の間(圧迫を緩めるとき)は、胸がしっかり戻るまで十分に力を抜きます。

小児(1歳以上15歳未満)の場合

胸骨圧迫は、両手または片手で、胸の厚さの約1/3が沈むまでしっかり圧迫します。速さは1分間に100回～120回のテンポで30回連続して絶え間なく圧迫します。

乳児(1歳未満)の場合

胸骨圧迫の位置は、両乳頭を結ぶ線の少し足側を目安とした胸の真ん中です。胸骨圧迫は指2本で行い、圧迫の強さ(深さ)は胸の厚さの約1/3を目安として十分に沈む程度に、1分間に100回～120回のテンポで30回連続して強く、速く、絶え間なく圧迫します。

AEDが到着したら

1 まず電源を入れる

まず、電源を入れる。



ふたを開けると自動的に電源が入る機種もあります。

AEDを傷病者の近くに置き、電源を入れる

2 電極パッドを貼る



電極パッドを貼る位置は電極パッドに書かれた絵のとおり、皮膚にしっかりと貼ります。体が汗などで濡れていたら、タオル等で拭き取ってください。

※おおよそ6歳ぐらまでは、未就学児用パッド(未就学児用モード)を使用します。未就学児用パッドがなければ、小学生~大人用パッドを代用します。

3 心電図の解析



離れて下さい。

心電図解析中は、傷病者に触れてはいけません。

電気ショックの必要性はAEDが判断する

4 ショックボタンを押す

誰も傷病者に触れていないことを確認したら、点滅しているショックボタンを押します。



ショックボタン

以後は、AEDの音声メッセージに従います。

心肺蘇生とAEDの手順は、救急隊に引き継ぐか、何らかの応答や目的のあるしぐさ(例えば、嫌がるなどの体動)が出現したり、普段通りの呼吸が出現するまで続けます。

5 心肺蘇生の継続

胸骨圧迫(100回~120回のテンポで30回):人工呼吸(1回に1秒の吹き込み2回)を繰り返す。

※ 電気ショックの適応がない場合は電気ショックの必要がない状態です。この場合はメッセージに従ってただちに胸骨圧迫から心肺蘇生を再開します。

AEDは機種によって必要があれば連続して最大3回の電気ショックを行うものがあります。この場合はAEDのメッセージに従ってください。

乳児にもAEDの使用ができます。電極パッドが備わっている場合はそれを使います。備わっていない場合は小学生~大人用パッドを使用します。

電極パッドの貼る位置は、電極パッドに表示されている絵に従います。

未就学児用パッドを成人には使用してはならない。